令和８年度

学校経営計画＝（教育計画・評価表）

目指す学校像	自分で考え、主体的に行動し、世界に羽ばたき、未来を創造していく人間の育成を理念とし、「自由・自主・自立」の校訓のもと、生徒一人ひとりの個性を尊重しつつ、明日の社会を担う人材への成長、育成に努める。また、生徒が「自分育て」をしながら、未来を創造する力「明日力」の育成を目指す。

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
個々に応じた丁寧な学習指導や進路指導の実践、各種行事等における一人ひとりが活躍できる場の設定やグループワークによる協働的な学びを通して教育的効果をあげることができた。多様な課題を抱える生徒への適切かつ継続的な対応においては、個性を重視しつつも社会や地域との関わりを深める支援が求められる。地域や保護者にキャンパスの良さを伝える「見える化」についてはまだまだ浸透していないので、今後、伝え方等を工夫していくなどの必要がある。	個々の生徒に応じた学習指導・進路指導の充実 （個別最適化・協働的な学びの視点）	生徒一人ひとりの能力や個性に応じた学習指導を行い、学力向上を図るとともに、グループワーク等を設定し、かかわりから学ぶ場の工夫をする。また、ICTを活用してキャンパスの垣根を超えた学びの場の醸成を図る。 進路指導においては、生徒各自が卒業後の進路決定が実現できるように年次に応じた支援をする。	
	心の成長を重視した道徳教育の充実 （協働的な学びの視点）	道徳教育の充実をさらに図り、一人ひとりの生徒の豊かな心の育成を図る。自ら考え、自ら判断し行動できる生徒を育成する。また、協働的な学びを通して他者との関わりを深め、自分自身の価値や能力、自己評価を高める。	
	学校並びにキャンパスにおける行事の創意工夫 （協働的な学び・見える化の視点）	魅力ある学校行事または各キャンパスにおける行事（地域や社会につながる体験学習）を企画、運営し、様々な行事を通して、より良い人間関係（教師と生徒、生徒同士）を深め、充実した高校生活が送れるよう支援する。さらなる特別活動時間の充実を図る。	
	地域との連携の充実 （協働的な学び・見える化の視点）	出身中学校、前籍校との連絡を密にし、情報を共有し合い、生徒一人ひとりの成長を図る。また、保護者会や面談を通して保護者との連携を図り、協力しながら生徒を支援するとともに、学校評価を通して挙げられた保護者・地域等からの声を参考によりよい学校運営を目指し、地域への定着を図る。さらに、ボランティア活動等による地域活動への参加を促す。	
	多様な課題や問題を抱える生徒への支援 （個別最適化の視点）	各生徒が抱える悩みや課題を少しでも解消し、不安なく学校生活を送ることができるように、一人ひとりに寄り添い、担任やスクールカウンセラーだけでなく、家庭や外部関係施設等との連携を密に図り支援する。	
	情報発信の機会の充実 （見える化の視点）	学校説明会や学校訪問等を実施し、本校が取り組んでいる教育活動について説明する機会を持つ。様々な教育活動を外部に発信するためにHPやSNSの効率的な活用を行う。	

年度末に11キャンパスに各項目で評価をつけてもらい、評価の平均をとって総合評価をつける。

【評価基準】A：十分達成できている（7点）　B：達成できている（5点）　C：概ね達成できている（3点）　D：不十分である（1点）　E：できていない（0点）

【総合評価】各評価を点数化し、平均でA：7点台、B：5～6点台、C：3～4点台、D：1～2点台、E：0点台　として総合評価をつける。

「自己肯定感」を育み、自分らしさを発揮しながら「学び続ける力」を伸ばしていけるよう支援する。

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
国　語	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けさせる。 ・学習を通して考える力、共感する力、想像する力、伝え合う力を養う。 ・我が国の言語文化に対する理解を深め活用する能力を身に付けさせる。	・漢字の読み書き・語句の学習等の内容を添削課題に盛り込み、社会生活に必要な国語の知識・技能の定着を図る。分からない事項について、調べる手立てを指導する。 ・漢字検定の受検を通して、効果的な漢字学習の方法を知り活用する能力を身につける。客観的な評価に基づき自らの能力を知り、努力の成果を感じる機会を設ける。	・漢字検定受検者の５割以上の合格を目指す。 ※全キャンパス（評価は前期のみ） ⇒A：６キャンパス以上/１１キャンパス B：５キャンパス/１１キャンパス C：４キャンパス/１１キャンパス D：３キャンパス/１１キャンパス E：２キャンパス以下/１１キャンパス				
		・添削課題の自分の考えを文章にまとめる活動や調べ学習、俳句の創作活動等を通して「考える力」「想像する力」「伝え合う力」を育成すると共に表現する喜びを味わわせる。 ・キャンパスにおける HR や面接指導を通して、教員や生徒同士の関わりの中で「聴く力」、「考える力」を養うことで、長く難しい文章を読み、理解できる能力を磨かせる。	・面接指導（校外学習含む）・特別活動・道徳等実施時に①報告書などにR80を使って感想等を書かせる②他者の意見や考え・感想等を共有し自分の考えを構築する（グループワークを行う）機会を設けるのいずれかを年間２回（前期１回・後期１回が望ましい）以上行う。 ※全キャンパス ⇒A：６キャンパス以上/１１キャンパス B：５キャンパス/１１キャンパス C：４キャンパス/１１キャンパス D：３キャンパス/１１キャンパス E：２キャンパス以下/１１キャンパス				
		・様々な教材文に触れたり、地域に根ざした学習活動に参加したりすることで我が国の言語文化や地域文化を理解し、活用する能力を身に付けさせる ・生徒の多様な課題に寄り添い、学び続ける意欲を培う学習支援を行う。	・１回以上国語に関連する体験的な学習活動〈面接指導（校外学習含む）・特別活動〉を実施。 ※全キャンパス ⇒A：６キャンパス以上/１１キャンパス B：５キャンパス/１１キャンパス C：４キャンパス/１１キャンパス D：３キャンパス/１１キャンパス E：２キャンパス以下/１１キャンパス				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
地　理 歴　史	・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な修得	・教科書の通読や、個に応じた添削課題、面接指導の工夫やICTの活用により、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る	・試験平均点６０～８０点（観点別評価B以上）				
	・社会的な見方や考え方を働かせ、主体的に課題を追及したり、解決しようとする態度の育成	・面接指導の場の設定やグループワーク、授業展開の工夫、双方向オンライン授業の活用し、主体的に課題を追及したり、解決しようとする態度を養う。	・履修者の９０%以上の修得を目指す ・双方向オンライン授業、グループワーク、対話的な学びの機会に１回以上参加				
	・地元に根差した体験学習を通じて、協働的な学びを実践し、思考力・判断力・表現力等を養う。	・新聞や公的機関が発行する資料等の活用や博物館、資料館、図書館などの公共施設等を利用し、授業や校外学習への参加を促し、調べたり、まとめたりする活動より、思考力・判断力・表現力等を養う。	・１教員１回以上の校外学習の実施 （可能な限り地元の施設を利用）				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
公　民	・理解を深めるための基本的な語句等基礎知識の獲得 ・自分という個から所属集団や社会への視点の拡大 ・実社会の問題を自分事として捉えることができる興味・関心・意欲の醸成	・レポート作成並びに面接指導を通して基礎基本を身に付ける上での要点を理解させる。左記の学習に加え、生徒の力量、進捗状況に応じて教科書の通読やICT教材、あるいは動画教材等の利活用を促す。進学希望者、かつ卒業年次公民科科目選択者についてはスタサプの積極的な利用を促す。	・左記の条件において対象の８割程度がスタサプを利用することを目標とする。				
		・自分事として現代社会の課題を捉えることのできる視点の獲得を目的として諸活動を展開する。具体的には、地方議会や裁判所等の三権に属する機関が活動している様子を直に見学する、公的機関が支える社会インフラ施設を見学する、生涯学習の視点を学ぶために公民館や文化会館等で地域の伝統行事を見学し参加するなど、キャンパスが所在する地域の環境を生かした体験的な活動への参加を通して、自らが社会の一員として今後担うべき役割や社会が持つ課題を意識させ、市民教育の充実に繋げる。	・可能な限り、在学中に複数回、実際に施設見学や体験を伴う学習を実施することを目標とする。 ・選挙権については、成人年齢に達する前に一度基本的な知識について学ぶ機会を設ける。				
		・「成人」に与えられる権利と経済的な自由について、基本的な知識の確認を行う。卒業後は独立し、生活を始める者も増えることから、経済の単位としての「家計」について基礎知識獲得を目的とした授業等を実施する。	・進路指導と合わせて「一人暮らしに係る費用とその内訳」のような身近なテーマで「家計」について学ぶ機会を在学中に一度は設ける。				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価 前	評価 後	評価 年	次年度への主な課題
数　学	・基礎基本の定着 ・解答を導く感覚の醸成 ・現実世界との関連性理解 ・問題解決能力向上のための、対話的で協働的な学びの機会の提供	・家庭学習におけるスタディサプリの活用を促し、基礎・基本の定着に努める姿勢を醸成する。 ・面接指導における個別学習課題において、観点別評価に則した出題内容を精選し拡充することで、生徒それぞれのペースで学習に取り組むことができる環境を整える。	⇒①前期・後期それぞれの試験において、30点未満もしくは未受験だった生徒の履修者に対する割合と、②次年度に向けた、個別学習課題の拡充（レベル別）の進捗度を、それぞれ（a、b、c）で評価したものを総合的に評価する。試験関係は「数学Ⅰ」、個別学習課題は全科目を対象とする。 評価基準 ①30点未満または未受験だった生徒の割合 a： 0%以上　30%未満 b：30%以上　50%未満 c：50%以上 ②個別学習課題の拡充が完了した科目数 a：5～8 b：1～4 c：0 （①と②の評価を並列させたもの） A：aa　　B：ab ba　　C：ac bb ca D：bc cb　　E：cc				
		・添削課題における家庭学習での主体的な調べ学習を促し、現実世界との関連性への理解を深める。 ・学習内容と社会との繋がりに対する興味・関心を持たせるため、日頃の学習指導において「気づき」のきっかけを作るための生徒への声掛けを適宜行う。	⇒ 数学科の常勤教員が所属するキャンパス（日立、柏、古河、下館、会津、山形）において前期・後期それぞれの試験における「主体的設問」に対する得点率（%）で評価する。「数学Ⅰ」、「ベーシック数学」の2科目を対象とする。 評価基準　A：70%以上 B：50%以上70%未満 C：30%以上50%未満 D：10%以上30%未満 E：10%未満 ※前期は9/4（金）、後期は1/29」（金）時点のものとし、年の評価は前期・後期の平均を取る				

		・生徒自身の持つ数学的な考えや意見を表現できる場を段階的に導入し、多角的な視点を持つことや個々の達成感へ繋げることのできる指導を行う。	⇒ キャンパス独自での学習指導(レポート解説授業、試験対策授業、体験的活動・校外学習など。面接指導での科目別授業は除く)の実施状況や、双方向オンライン授業への参加状況を調べ、前期・後期・年間で１度でも上記のいずれかを実施または参加したキャンパス数で評価する。 評価基準　A：9以上　　B：7以上9未満 C：4以上7未満　D：2以上4未満 E：2未満				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
理　科	・基本的な自然現象における規則性を理解させると共に日常生活との関連付けを気付かせる。 ・ICT を取り入れた学習支援等、個別最適化を図る。	・観点別評価を取り入れた添削課題・個別学習課題の精選を行い、個々に応じた学びの充実を図る。	・教科内で見直した観点別評価基準を反映させたレポート作成（科学と人間生活、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎）を行う。 ・添削課題と連動したスタディサプリ内の対応講義動画視聴を促し、基礎固めを図る。				
		・身近な物事・現象に関する観察、実験等を通し、探究する能力と態度を身につけさせる機会を増やす。	・各キャンパスでの校外学習や ICT を活用した実験の実施は、全キャンパスでの実施を目指す。				
		・協働的な学びを通し、基本的な概念や原理・法則を理解し科学的な見方や考え方の能力を養う。	・協働的な学びは、面接指導等でグループワークを伴う活動を年１回以上、理科教員在籍キャンパス（日立・水戸・柏・いわき・ネット）での実施を目指す。				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
保健体育	・自己管理能力、計画性の育成 ・現状の体力を知ることにより、生活習慣の改善、継続的な運動習慣を身に付ける	・オリエンテーションにより体育実技面接指導（スクーリング）への意識づけ ・計画性をもった実技面接指導（スクーリング）への出席を促す →キャンパス内での面接指導計画に基づき、生徒への連絡を徹底する →毎回、各キャンパスの面接指導出席率を把握することで効率よい面接指導の実施を促していく ・体力測定により、自己の身体の現状、体力を知り、基本的な生活習慣を改善するための課題を見つける →昨年度の体力測定の結果を知り、今年度の体力測定各種目の目標設定の目安となるようにする 昨年度の結果を生徒へ周知・出席票配付	・各キャンパス出席率からの評価 評価基準 A：90%以上 B：70%以上90%未満 C：60%以上70%未満 D：50%以上60%未満 E：50%未満				
	・仲間との協働により、運動の楽しさ、喜びを味わう ・グループワークからのコミュニケーション能力育成、人間性の育成	・グループワークでの協働により、互いに協力すること、個々の違いを尊重する姿勢を育てる →面接指導時に基本的なルールや練習方法などを説明したり、提示したりすることにより活動内容が明確になり、導入時のグループワークを円滑に進めることができるようにする	・前期末・後期末にて、それぞれ全キャンパスで生徒アンケートを実施 実施の流れについて、「活動内容が明確だった」「グループワークを円滑に進められた」の2項目の回答状況から評価 ※各5段階評価：2項目の平均値を用いる 評価基準 A：4.5以上　B：4.0以上4.5未満 C：3.0以上4.0未満　D：2.0以上3.0未満 E：2.0未満				

	・実習等を活用し、保健分野と実生活との関連を捉えさせる	・添削課題(保健)と実生活との関連を捉えさせ、日々の生活との繋がりに対する興味・関心の芽生えに繋げる →応急手当（心肺蘇生）について、正しい手順や方法があることを理解させる。また、傷病や疾病によって身体が時間の経過によって損なわれていくため、適切な処置をする基本的な能力を身に付ける →性に関しての正しい知識を習得する ＜見える化＞ 実習等における生徒が活動している様子を配信 キャンパスブログ等の活用 各種お便り等の活用 ・生徒自身の考えを他者に伝えることのできる機会を設定する	下記項目の中から、各キャンパスにて2項目は必ず指導する機会を設ける 保健Ⅰ：「喫煙・飲酒について」 「応急手当・熱中症・心肺蘇生法について」 保健Ⅱ：「性に関する内容」 「食品の安全性について」 ※登校実施機会を設ける（道徳の時間利用可） ※面接指導における授業実施も可 ※保健環境・安全部からの実施と重複する項目は同時実施でも可 2項目以上実施のできたキャンパス数で評価 評価基準 A：9以上　　B：7以上9未満 C：4以上7未満　　D：3以上5未満 E：3未満				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
芸　術 （書道）	・多様な場面に対応する書写の基礎能力定着	・生徒一人ひとりの能力や個性に応じた学習指導、各学習目標に合わせたきめ細やかな添削指導を行い、生徒の書写の基礎力向上を図る。	・芸術科教員研修を年１回以上実施し、教員の指導能力の向上を図る。				
	・書道を通じた自己表現能力の向上	・添削課題における創作作品や毛筆課題制作を通して、自己表現能力の向上を図るとともに書くことの楽しさや意欲を育てる。	・芸術科教員在籍キャンパス（日立・水戸・古河・千葉・会津）では、年間１回は実技の機会を設ける。 ⇒A：４キャンパス/５キャンパス B：３キャンパス/５キャンパス C：２キャンパス/５キャンパス D：１キャンパス/５キャンパス E：０キャンパス/５キャンパス				
	・書の美しさを感じ取る鑑賞能力の育成	・異なる書風の古典を一度に比較する内容を添削課題に盛り込み、書風の違いや書の美しさを感じ取る鑑賞力の育成を図る。	・芸術科教員在籍キャンパス（日立・水戸・古河・千葉・会津）では、年間１回は鑑賞の機会を設ける。 ⇒A：４キャンパス/５キャンパス B：３キャンパス/５キャンパス C：２キャンパス/５キャンパス D：１キャンパス/５キャンパス E：０キャンパス/５キャンパス				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
外国語	・基礎・基本の定着を図る ・生徒の習熟度や学習段階に応じた言語コミュニケーション能力を育成する。 ・外国語を通じて、言語や文化に対する興味関心 ・理解を深める。 ・情報や考えを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。	・生徒一人ひとりの習熟度や実態を考慮し、個々に応じた学習指導を行い、基礎・基本の定着を図る。	・評価の基準：学校設定科目（英語入門、ベーシック英語）後期試験の点数が30点未満の生徒の割合で判断 →A:40％未満、B: 50％未満、C:60％未満、D:70％未満、E: 80％未満				
		・校内外学習で外国語やその背景にある文化に触れる機会を設けることにより、外国語の活用に興味を持たせる。	・評価の基準：英語科教員在籍キャンパス（ネットキャンパスを除く）において、各キャンパスで年1回以上の校内外学習の実施を目指す →A: 9/9、B: 7～8、C: 5～6、D: 3～4、E: 2以下 （分母はネットキャンパス除く9キャンパス）				
		・生徒が主体的に取り組める問題を学習課題に盛り込み、学んだ内容からさらに発展した表現力を高め合う協働的な学習の要素を取り入れる。	・評価の基準：英語科常勤在籍キャンパス（日立・水戸・千葉・いわき・古河・山形・ネット）において、授業形式のキャンパススクーリングや、試験対策授業等の中で、年に１回以上、協働的な学習の要素を取り入れる。（科目はキャンパス裁量） →協働的な学習を行ったキャンパスが、 A: 7/7、B:6～5、C: 4～3、D: 2～1、E: 0				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
家　庭	・生活に必要な知識･技術の習得に努める。 ・ 生活を工夫し創造する能力を育成する。 ・ 生活の中の問題を発見し、解決に向けて動ける力、多様な見方や考え方を受け入れる力を育てる	・成年年齢の引き下げに伴い契約や消費者問題に関する指導を強化する。 （他教科と連携しながら多角的に進める。）	・消費者教育を年１回はどのキャンパスでも実施できるよう呼びかける。教材になる内容で家庭科通信を発行し、それらを用いてHR等で指導を行う ⇒A：９キャンパス/１１キャンパス B：７キャンパス/１１キャンパス C: ５キャンパス/１１キャンパス D: ３キャンパス/１１キャンパス E: ０キャンパス/１１キャンパス				
		・日々の学習指導や家庭科だよりを通して、「食育」の推進に力を入れ生徒の健康増進に努める。	・家庭科通信の年４回発行を目指し、生徒・保護者に向けての食育に努める。 ⇒A：年４回/年４回　　B：年３回/年４回 C: 年２回/年４回　　D: 年１回/年４回 E: 年０回/年４回				
		・各キャンパスに向けて家庭科の体験活動に関する情報共有を行い、面接指導や校外学習の中での体験的な学習活動や、課題研究系科目の協働学習型の面接指導の中で、生徒の生活の営みにかかわる知識と技術と見方・考え方を身に付ける。	・各キャンパス１つ以上これらの活動を実施。 ⇒A：９キャンパス/１１キャンパス B：７キャンパス/１１キャンパス C: ５キャンパス/１１キャンパス D: ３キャンパス/１１キャンパス E: ０キャンパス/１１キャンパス				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
情　報	・情報技術の基礎・基本の定着を図る。 ・問題解決に向けて情報と情報技術を活用する力を養う。 ・情報社会に主体的に参画する態度を養う。	・情報処理能力の育成（文章・表計算の作成等）を行う。 ・生徒の情報処理能力に応じた（個別最適化）課題の充実。	・面接指導にて生徒が自分の端末（キーボードの貸与）で基本的な文章・表計算の作成を支援する授業等の展開を実施する。生徒の習熟の度合いにより取り組む課題を取捨選択させ、自分に合った難易度の情報処理能力の育成の醸成を図る。 （A:実施　E:未実施）				
		・情報モラルの理解や情報リテラシーの基礎を学び、普段の生活からSNS等での発信の際の注意喚起につながる活動を行い、生徒同士が協働して考える機会を持たせる。	・情報モラルを題材にした授業を実施し、その中で生徒同士が協働して考える機会を設ける。生徒同士が話し合って理解を深める機会を実施する。 （A:7割　B:6割　C：5割　D:5割未満）				
		・情報の信頼性や信ぴょう性を見極めたり確保したりする能力の育成の機会を特別活動や道徳に盛り込む。また、普段から生徒が適切に情報を扱い主体的にその情報を活用しようとする能力を育む活動を積極的に取り入れる。	・情報履修者のみならず、情報社会における注意点を再確認できる機会としてホームルームでの情報モラル講話や情報活用能力の育成（SNSにおける炎上の危険性、フィッシング詐欺などの対策）の機会を担保していく。キャンパス実施率6割を目指す。 （A:8割　B:6～7割　C：5割程度　D:5割未満）				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
学習指導と評価および教育課程 （教育運営推進部）	・基礎・基本の習得、活用する力を育成する。 ・生徒の実態に即したICT学習支援ツールの確立 ・生徒の個別最適化を促す支援体制の構築	・生徒の実態に見合った個別最適な教材を精選して、確かな学力の育成を図る。 ・キャンパスの垣根を超えてICT学習支援ツールを使った授業を実施し、生徒が主体的に学べる環境を整える。	・スタディサプリを利用した授業（面接指導・特別活動や道徳）の実施ができている。 （A:8割以上　B：6割以上　C：5割　D:5割未満） ・双方向オンライン学習授業者同士でICT支援ツールを活用した授業の展開を共有したり、視聴報告に授業の満足度の設問を入れ、授業内容の充実をはかる。 （A:8割以上　B：6割以上　C：5割　D:5割未満）				
		・生徒が能動的に学ぶことができる環境を整え、横断的な学習活動を展開し、生徒一人ひとりの学びや成長を見とる評価を実施する。	・双方向オンライン授業への参加率向上に向けて連絡ツール（MyiD）の案内の既読率を各キャンパスで8割以上となるよう、キャンパスでの連絡ツール確認等をこまめに実施する。 （A:8割以上　B：6割以上　C：5割　D:5割未満）				
		・体験的な活動を推し進め、主体的で深い学びの実践と物事を理解し活用しようとする能力を育む。協働的な学びを通して対話を通した深い学びの実践を行う。	・生徒同士や教員・生徒が対話を通した深い学びを伴う校内学習や、地域に根差した校外学習や体験活動を年5回以上企画・実施する。 （A:8割以上　B：6割以上　C：5割　D:5割未満）				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
特別活動	・心の成長を重視したホームルーム、道徳活動の充実を図る。	【ホームルーム活動】 ・道徳教育の充実のため、各キャンパスで行った活動データの保管・活用を行う。 ・「キャリア・パスポート」で高校生活の見通しを立て、振り返りを行うことで、基本的な生活習慣の確立を目指す。	・各キャンパスで、前期１回、後期１回以上グループワークの機会を設ける。 ・各キャンパスで行った活動のデータを共有し活用できるよう前期・後期で声掛け等のアナウンスを行う。昨年度以上の数のデータ保管および活用を目指す。				
	・魅力ある学校行事を企画・運営し、特別活動時間の充実を図る。 ・オンライン特別活動の機会を通じて、協働的な学びや、地域や保護者に学校やキャンパスの魅力を伝える「見える化」を図る。	【学校行事】 ・生徒一人ひとりが、心身の健康・仲間との協働が図れるように校内外の様々な教育活動（生活体験発表会、校内芸術展、定時制通信制体育大会、修学旅行、文化活動等）に積極的な参加を促す。それらの活動を通して自己に自信を持ち心身ともに豊かでたくましい生徒を育成する。 ・魅力ある学校行事を企画・運営するために、分掌会を年間の行事や会議日程を鑑みて開催し、分掌内で相談や情報共有を図る。 ・オンライン特別活動を実施し、キャンパスの垣根を超えた学びの場を設定する。 ・社会の状況を鑑みて、行事の計画・運営を行う。	・オンライン特別活動（修学旅行の事前学習や生徒生活体験発表大会の視聴等）を実施する。				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
進　路 指　導	・家庭及び関係機関との連携を密にして、生徒一人ひとりの個性を伸長し自らが主体的に進路選択できるようにするための機会を提供する。 ・生徒の実態を踏まえ、進路実現に向けた継続的な指導・組織的な援助相談体制をつくる。	・各キャンパスの進路希望調査に基づき、年次に応じた様々な進路行事を定期的・継続的に行い勤労観や職業観の育成、希望進路実現に向けての指針を与え、進路に対する意識の高揚を図る。 各キャンパスの評価を集約して評価を決める。（ネットキャンパスを含まない）	・前期に**２・３年次**対象の進路行事を１回以上実施する。 ・後期に**１・２年次**対象の進路行事を１回以上実施する。 上記の内容で実施できたキャンパス数（ネットキャンパス以外）で評価する。 Ａ：10キャンパス Ｂ：８～９キャンパス Ｃ：６～７キャンパス Ｄ：４～５キャンパス Ｅ：～３キャンパス				
		・履修相談や面談（二者・三者）等を通して、保護者と協力しながら、個々の生徒に応じた進路相談・支援をする。 ・進学・就職それぞれの指導を教員や関係機関が連携しながら一人ひとりに応じた指導を行う。 各キャンパスの評価を集約して評価を決める。	・保護者、教員間、ハローワークなどの関係機関等と連携しながら、進路相談や支援、指導ができているか。 前期、後期それぞれキャンパスで振り返り、各キャンパスがＡ～Ｃの3段階で評価する。その結果で全体の評価を決める。 Ａ：９０％以上（３点） Ｂ：５０～９０％未満（１点） Ｃ：５０％未満（０点） 各キャンパスの評価を集約して評価を決める。 Ａ：３０以上 Ｂ：２７～２９ Ｃ：２０～２６ Ｄ：１２～１９ Ｅ：０～１１				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
生徒指導	・生徒一人ひとりが善悪や社会規範を正しく理解し、日常生活において自らの意思により判断・行動する力を養う。 ・様々な課題を抱える生徒一人ひとりに対し、充実した支援を行う。 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。	・社会規範の定着のため、道徳・特別活動時においてキャンパス教員や外部講師による「非行防止」等に関する活動を実施する。その他、必要に応じて個々に応じた指導を行う。	・各キャンパスにおいて年間１回以上、非行防止等に繋がる活動を実施する。 （※対象年次はキャンパス裁量） A・・・9～11キャンパスで実施 B・・・7～8キャンパスで実施 C・・・5～6キャンパスで実施 D・・・3～4キャンパスで実施 E・・・ ～2キャンパスで実施				
		・教員間のみに止まらず、保護者やスクールカウンセラー、医療・福祉等の関係機関と連携したうえで、生徒一人ひとりの課題解決を図る。	・各キャンパスにおいて月１回程度を目安に情報交換を実施する。 （※情報交換の時間はキャンパス裁量） A・・・9～11キャンパスで実施 B・・・7～8キャンパスで実施 C・・・5～6キャンパスで実施 D・・・3～4キャンパスで実施 E・・・ ～2キャンパスで実施				
		・いじめ実態調査等の実施により、問題の把握に努め、いじめを絶対に許さない気運を醸成する。	・各キャンパスにおいて年間１回以上、人権教育等のいじめ未然防止に繋がる活動を実施する。 （※対象年次はキャンパス裁量） A・・・9～11キャンパスで実施 B・・・7～8キャンパスで実施 C・・・5～6キャンパスで実施 D・・・3～4キャンパスで実施 E・・・ ～2キャンパスで実施				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価 前	評価 後	評価 年	次年度への主な課題
保健環境・安全部	・心身の健康と健康保持増進に必要な自立能力の育成を図る。 ・環境衛生と安全管理の徹底に努める。	・生徒の心身の健康管理を図るために、日々の健康観察および健康診断や保健調査の結果を把握し、治療勧告・保健指導・健康相談を実施（カウンセラーに繋ぐ等）し、生徒の心身の健康問題の解決のための支援を進める。	健康診断票(全キャンパス)の提出率で評価 ≪①直営≫ a：90%以上100%未満　b：80%以上90%未満 c：80%未満 ≪②サポート校≫ a：80%以上100%未満　b：70%以上80%未満 c：70%未満 【①と②の評価を並列させた値での評価】 A：aa　B：ab ba　C：ac bb ca D：bc cb　E：cc				
		・ホームルームや生徒登校時に保健だより等を利用し保健指導を実施したり、年間計画に基づく保健指導や地域と連携した防災教育を実施したりすることにより、生徒の健康の保持増進と防災意識の向上に努める。	保健指導・防災指導の実施率で評価 ①保健だより(5月・7月・9月・11月の計4回)を利用した対面での指導を行なっているか。 a：8キャンパス以上が実施完了 b：4キャンパス～7キャンパスが実施完了 c：実施完了が4キャンパス未満 ②「性に関する指導」「薬物乱用防止」「救急法」「防災教育」の4項目の実施を必須(実施学年・対象生徒はキャンパス裁量)として、キャンパスへ通知⇒11キャンパス中、達成できたキャンパス数で評価 a：8キャンパス以上が実施完了 b：4キャンパス～7キャンパスが実施完了 c：実施完了が4キャンパス未満 【①と②の評価を並列させた値での評価】 A：aa　B：ab ba　C：ac bb ca D：bc cb　E：cc				
		・施設設備の定期点検を徹底し環境整備をすることや、危機管理マニュアルを定めることにより、各利用施設の避難経路や災害発生時の連絡体制および対応方法を明確にした上で、地域等と協力し避難訓練を実施し、生徒の災害発生時における迅速な行動についての意識徹底を図り、事故防止・事故抑止に努める。	安全点検にて、修繕対応を完了とできたキャンパスの達成率で評価 ※「修繕箇所なし」のキャンパスは「修繕完了」とみなす。 ※直営11キャンパスを対象として評価 A：9キャンパス以上が実施完了 B：7キャンパス～8キャンパスが修繕完了 C：5キャンパス～6キャンパスが修繕完了 D：3キャンパス～4キャンパスが修繕完了 E：修繕完了が3キャンパス未満				

評価項目	具体的目標	具体的方策	具体的行動計画（評価の基準）	評価			次年度への主な課題
				前	後	年	
キャンパス運営 （教務主任）	・家庭や地域との連携、協働を重視した特色ある教育活動の推進 ・教科および校務分掌、事務作業など教員の働き方に偏重が出ない効率を考えた業務の推進 ・生徒の多様性を鑑み、生徒たちの居場所となるとともに、一人ひとりの自己肯定感が高められるような雰囲気づくりや環境の整備に努める。	・地域の特性を活かし、家庭や地域との連携・協働を重視し、教育活動全体を通して、多様な学びや人間性の陶冶につなげる。	・学校評価（教員）アンケートより「教員と保護者の連携が十分にとれている」の設問について「そう思う」「ややそう思う」の回答が a：80%以上、b：70%以上、c：60%以上、d：60%未満 ・学校評価（公共・民間施設）アンケートより「本校を紹介しやすい」の設問について「そう思う」「ややそう思う」の回答が a：80%以上、b：70%以上、c：60%以上、d：60%未満 2つの評価が aa→A、ab・bb・ac→B、ad・bc→C、bd・cc→D、cd・dd→E				
		・働き方改革や服務規程の変更により、教職員の業務の軽減を積極的に導入し、効率的に物事を進められるような業務の改善を図る。	・常勤教職員の平均年休取得日数について A：16日以上、B：13日以上、C：10日以上、D：7日以上、E：7日未満				
		・教員間の情報交換や共通理解を徹底して生徒理解を深め、生徒たちの居場所となるとともに、一人ひとりの自己肯定感を高められるような雰囲気づくりや環境の整備に努める。	・学校評価（教員）アンケートより「教育活動全般」の設問番号3・9・10・17について「そう思う」「ややそう思う」の回答の平均値が A：90%以上、B：80%以上、C：70%以上、D：60%以上、E：60%未満 ※学校評価（教員）アンケートはR7年度版と同じ設問であることを想定している。				